

# ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

応用地域学会ニューズレター（日本語版）, No.78, February 2012

---

---

ARSC 事務局：〒164-0003 東京都中野区東中野 3 丁目 9 番 21 号

ウノサワビル (株)メッツ研究所内

応用地域学会事務局 文部科学省学会コード=10023

会長：黒田達朗 担当：宮本成雄

TEL: (03)3371-6242

FAX: (03)3371-6247

E-mail : clerk@arsc.org

---

---

主要項目： 第 25 回研究発表大会報告  
2011 年度坂下賞  
2012・2013 年度 運営委員選挙について  
第 26 回研究発表大会のご案内  
第 2 回アジア地域科学セミナーのご案内  
会員の入退会について  
2012 年度会費納入のお願い  
総会報告  
事務局だより

---

---

## 1. 第 25 回研究発表大会報告

大会実行委員長：岩田真一郎（富山大学）

第 25 回応用地域学会研究発表大会は、2011 年 12 月 3 日（土）、4 日（日）の 2 日間にわたり富山大学五福キャンパスにおいて開催された。本大会の開催に当たっては（財）日本教育公務員弘済会富山支部から助成していただいたほか、富山観光コンベンションビューローより地元紹介用の配付資料などを提供していただいた。以下では、今回開催された大会の概要を紹介する。

### 1. 研究発表大会

研究発表大会では、計 4 つのセッション会場が設けられ、64 編の研究論文が報告された。応用地域学会の中心的なテーマである「集積の経済」や「交通問題」に加えて、昨年 3 月に東日本を襲った大震災を受け、「東日本大震災の経済学分析」のセッションが開催された。

また、特定セッションとして、「少子高齢社会の社会保障・教育・環境」が開催された。

一般の報告申込により構成されたセッションでは「企業立地」、「地域経済」、「人口問題」、「租税政策」、「住宅・土地」などの伝統的テーマに加えて、近年応用地域学会の中心的な研究領域として注目を集めている「新経済地理学」、「空間統計分析」、「CGE分析」などのセッションが開催された。そのほかにも、実社会の問題意識を反映した「保育・出生」や「環境政策」のセッションが開催された。

また、大学院生などの若手の育成を目的とした「Early Bird」の4つのセッションでは、計7編の報告があり、朝一番から、若々しい議論があふれていた。

大会には、約150名の参加者があり、いずれのセッション会場も、発表者、討論者やフロアの参加者が一体となって活発な意見が交換されていた。

## **2. 特別講演 - 藤田昌久先生学士院会員選出記念講演**

藤田昌久氏（（独）経済産業研究所）の日本学士院会員選定を記念して、藤田氏が「東日本大震災と復興政策－空間経済学の視点から」と題して講演された。藤田氏は東日本を震災前に戻す単なる復旧ではなく、将来の発展に繋がるような復興が必要であると説いた。そのためには、企業はリスクに強いサプライチェーンの再構築が求められ、政府は製造業の空洞化を防ぐとともに、外資を呼び込む努力が必要であろうと主張された。さらに、地域復興には多様性に富み自律性の高い社会システムを再構築することが求められるが、そのためには道州制のような地方分権システムが望ましいと論じた。

藤田氏は、最後に今後の都市地域科学の更なる発展に向けて、都市地域科学に携わる研究者は、リスクを考慮した最適なサプライチェーンとはどのようなものか、通常における「市場」を通じての取引関係だけでなく、非常時における「顔」を通じた相互協力をどのようにモデルに取り入れていくかを考えなくてはならないと提案された。

## **3. 坂下賞受賞記念講演**

2010年度受賞者の小川光氏（名古屋大学）が「Fiscal Competition and Political (Dis)Integration」と題して講演された。国家や地域は分裂したり、統合されたりする過程で政治的に決定される地理的境界が変化するが、その理由や価値判断を経済学的に解明する研究が最近増えている。小川氏の研究は、国家間のグローバル化（資本市場の統合）は、中央政府による国内の地域（市町村）数の減少、すなわち市町村の過剰な合併をもたらすことを明らかにし、その上で地域数の決定を中央集権的に任せるのではなく、民主的決定に任せることで、過剰な合併を抑制できると政策提言したものである。

## **4. 総会**

大会初日に2011年度の総会が開催された。2011年度活動報告及び学会活動方針、会員異動報告、2011年度決算および2012年度予算が承認された。

また、2011年度の坂下賞が山本和博氏（大阪大学）に与えられることに決定したことが、選考委員会委員長の佐々木公明氏（尚絅学院大学）より報告されるとともに、総会終了後、その授賞式が執り行われた。山本氏は、新経済地理学モデルのフレームワークを用いた、産業集積、人口分布に関する緻密な理論分析を行い、国際的に評価の高い学術誌に論文を刊行している。また、教育にも熱心であり、既に都市地域科学で自立している優れた研究者を育て上げている。

なお、第 26 回研究表大会は青森公立大学において、第 2 回アジア地域科学セミナーは(財)国際東アジア研究センターの協力により北九州市において、それぞれ開催されることが決定した。

総会終了後は、富山電気ビルで懇親会が行われ、約 90 名の参加があり、富山の郷土料理を味わい、富山のお酒を飲み比べつつ、議論や交流のタベがもたれていた。

## 2. 2011 年度坂下賞 (Sakashita Prize)

2011 年度坂下賞選考委員会 委員長 佐々木公明(尚絅学院大学)

2011 年度の坂下賞については、選考委員会の慎重なる議論を経、以下のように山本和博氏(大阪大学)に決定しました。なお、今回から、候補者の推薦を公募し、選考は、公募と選考委員からの推薦者を含めて議論されました。

**受賞者； 山本和博(大阪大学)**

**授賞理由；**

新経済地理学モデルのフレームワークを用いた、産業集積、人口分布に関する緻密な理論分析を行い、評価の高い国際誌にこれまで 7 編の論文を刊行し、2 編の刊行予定の論文を完成させている。このことは都市地域科学の分野で、間違いなく将来を嘱望できる研究者であることを示している。特に、2005 年の Regional Science and Urban Economics に掲載された論文において、経済地理学を一般化し、収穫一定技術と収穫逓増技術を企業が選択できる興味深いモデルを提示し、各国における産業化の過程の違いや産業集積の違いを理論的に説明することに成功している。また、Journal of Population Economics に(刊行予定も含め) 2 本の論文を掲載するなど、日本において少子高齢化対策が重要な課題にある時期に、人口動態をも分析対象とするなど研究領域を開拓する精神にも満ちている。

さらに、山本氏は比較的若い時期から教育にも熱心で、既に都市地域科学で自立している優れた研究者を育て上げていることは賞賛に値し、応用地域学会の発展のための貢献が大きい。以上の理由によって、2011 年度坂下賞は山本和博氏に授与することが適切であるとの結論に至った。

2011 年度 坂下賞選考委員会

委員長 佐々木公明(尚絅学院大学)

委員 赤松 隆 (東北大学)

瀬古美喜 (慶応義塾大学)

黒田達朗 (ARSC 会長)

中村良平 (ARSC 副会長)

坂下賞の表彰は、12 月 3 日の応用地域学会総会の中で行われ、山本和博氏には、黒田達朗会長から、表彰状(盾)と金一封が授与されました。

### 3. 2012・2013年度運営委員選挙について

---

選挙管理委員 赤木博文（名城大学）  
森杉雅史（名城大学）

下記のように次期運営委員の選挙を行います。この運営委員選挙の管理委員は、応用地域学会選挙内規Ⅱ第3条に従い、会長指名により、名城大学の赤木と森杉の両名が務めます。

ARSC会則第8条および内規Ⅰにしたがって、下記の要領で第12期(2012年4月1日から2014年3月31日まで)運営委員の選挙を行います。

投票は、別途郵送（同封）の選挙葉書により、3名連記の投票をお願いいたします。投票の締め切りは、**2012年3月16日（当日消印有効）**といたします。

（別添の運営委員選挙の案内に従って投票をお願いいたします）

### 4. 第26回研究発表大会のご案内

---

2012年度のARSC研究発表大会は、青森公立大学において、木立 力先生（青森公立大学）、猪原龍介先生（青森公立大学）、森田 学先生（青森中央学院大学）のご協力のもと、下記要領にて実施いたします。

#### <第26回研究発表大会>

日 程：2012年11月17日（土）、18日（日）

（総会、懇親会は11月17日を予定）

会 場：青森公立大学キャンパス（青森市内からの送迎バスなどを検討中）

発表申込み〆切：2012年8月末（予定）

論文提出〆切：2012年10月末（予定）

お問合せ：ARSC事務局(clerk@arsc.org)

（発表申込先および受付開始時期などを含む詳細については、ニューズレター次号（6月発行予定）、メーリングリスト、ホームページ(予定)等で、ご案内していきます。）

### 5. 第2回アジア地域科学セミナーの開催について

---

12月の総会でも紹介されましたように、2009年度まで、中国地域学会（RSAC）と共同開催してきました地域科学に関する日中共同セミナーは、2010年度から、アジア地域科学セミナーとし、広くアジア地域の地域科学の発展と研究交流の場としてスタートし、第1回は、北京大学（中国）で開催されました。2011年度は、第2回として、東北大学（日本）での開催を予定していましたが、東日本大震災の影響で、延期せざるを得なくなりました。

既に、メーリングリスト等でご案内してきていますが、第2回アジア地域科学セミナーは、応用地域学会、中国地域学会に加え、台湾地域学会および韓国地域学会も加わり、財団法人

国際東アジア研究センターのご協力を得、下記のように(日本 北九州市)で開催いたします。今回から台湾および韓国の地域学会も加わるため、より多くの日本からの発表と参加が期待されています。多数の参加をお待ちしています。詳細は、Call for Papers (添付) をご覧ください。新しい情報等は確定次第、ホームページ、メーリングリスト等で順次お知らせしていきます。

#### <第2回アジア地域科学セミナー>

**開催日** 2012年9月29日(土)、30日(日)  
**場 所** 財団法人国際東アジア研究センター (ICSEAD)  
〒803-0814 福岡県北九州市小倉北区大手町11-4  
**参加費** 一般; 10,000円 学生; 5,000円  
(昼食2回、29日夜の懇親会費を含みます)  
**論文発表申し込み** アブストラクト(英文)の提出をもって申し込みください。  
2012年5月31日(木)必着  
**Full paper 締切** 2012年8月31日(金)  
**アブストラクト送り先** e-mail [dai@icsead.or.jp](mailto:dai@icsead.or.jp)  
( (財)国際東アジア研究センター 戴 二彪 先生)  
**問い合わせ先** e-mail [sakamoto@icsead.or.jp](mailto:sakamoto@icsead.or.jp)  
tell 093-583-6202 fax 093-583-4602  
( (財)国際東アジア研究センター 坂本 博 先生)

## 6. 「応用地域学研究」編集委員長交代について

---

「応用地域学研究」の編集委員長は、奥村 誠先生(東北大学)から、大澤義明先生(筑波大学)に交代いたします。奥村先生は、現在編集集中のNo.16号の刊行まで担当され、No.17号から、大澤先生が、編集委員長を務められます。なお、現在編集集中のNo.16は、3月には、皆様のお手元に届くよう、鋭意進められています。奥村先生には、3年間の編集委員長としてご尽力いただきましたこと、深く感謝申し上げます。

編集委員長交代に伴う編集委員会のメンバー構成は、以下のようになります。(敬称略)

#### <「応用地域学研究」編集委員会>

**編集委員長** 大澤義明(筑波大学)  
**編集委員** 安藤朝夫(東北大学)、奥村誠(東北大学)、  
亀山嘉大(香川大学)、衣笠達夫(追手門学院大学)、  
平澤亨輔(札幌学院大学)、吉田あつし(筑波大学)

「応用地域学研究」への今後の論文投稿の宛先等は、次項のようになります。

## 7. 応用地域学研究への投稿論文の募集

---

「応用地域学研究」編集委員長：大澤 義明（筑波大学）

現在、「応用地域学研究」編集委員会では論文投稿を随時受け付けていますが、年2回の雑誌刊行の予定に合わせて、1月20日と7月20日の締め切り日を設けております。投稿論文は編集委員会の指名する複数の査読者により査読が行われます。雑誌は年2回の刊行を心がけております (<http://www.arsc.org/>を参照ください。)。奮ってご投稿下さい。特に、若い研究者によるご投稿、地域課題に関する問題解決型論文、震災復興など適時性に優れた論文のご投稿をお待ちしております。

1. 論文投稿希望の方は、論文はできるだけ word 形式のファイルを電子メールの添付ファイルでお送り下さい。**宛先は、編集委員長です(e-mail:osawa@sk.tsukuba.ac.jp)**。LaTeXで作成された原稿で pdf ファイルでも結構ですが、印刷時の編集の都合で最終原稿は word でお願いすることがあります。

2. 受付の確認を電子メールで送付いたしますので、投稿後一ヶ月を過ぎても連絡が無い場合は、下記までお問い合わせ下さい。

3. 掲載論文の著作権は学会に帰属します。また、応用地域学研究発行1ヶ月後に掲載論文を学会HPにて公開します。

---

応用地域学研究編集委員長

大澤 義明

筑波大学システム情報系社会工学域

TEL& FAX 029(853)5224

E-Mail [osawa@sk.tsukuba.ac.jp](mailto:osawa@sk.tsukuba.ac.jp)

## 8. 会員管理システムの運用について

---

事務局 宮本成雄

会員皆様の便宜向上と事務局業務の効率化を図るため、会員管理システムの導入を準備してきましたが、運用を開始いたします。会員の皆様には、ARSC ホームページから、“会員のページ”に、ID とパスワードで、アクセスしていただき、会員メニューから、登録情報の閲覧と変更、会員名簿の閲覧、会費支払い状況の確認等ができるようになっております。

今回、皆様の、会員番号 (=ID) とパスワードなどの登録情報の一部を記したペーパーを郵送 (同封) します。また、同時に、会員ページの活用に関する留意事項をまとめたものも、配布 (配信) していきますので、よくお読みいただき、まずは、会員ページにアクセスし、登録情報や会員名簿等を確認し、必要に応じ変更登録してください。

今後、このシステムを用いて、登録情報の変更・確認をしていきたいと思っております。会員の皆様におかれましては、勤務先（所属先）の異動、自宅住所変更等、登録情報に変更があった場合は、原則、この会員ページから、変更登録をしていただくこととなりますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

なお、事務局では、会員ページから登録された会員情報の変更、入退会情報などを受け、システムの機能を用いて、その確認承認や、機関紙送付リスト作成、RSAI メンバーリスト作成送信、メーリングリスト更新、会費納入の集計・チェック・請求書作成等の業務を効率的に行うことができるようになります。

このシステムでは、会員の皆様の変更登録等の速やかな対応があつて初めて、最新の会員情報に基づいた事務処理や、最新の名簿閲覧ができる等、機能化や会員サービスの向上に通じるものです。よろしくお願いいたします。

なお、このシステムの運用に関しての、お問い合わせ、ご意見等は、ARSC 事務局 ([clerk@arsc.org](mailto:clerk@arsc.org)) をお願いいたします。

## 9. 会員の入退会について

---

2011 年度総会（2011 年 12 月 3 日）において、前回総会（2010 年 12 月）以降に入退会の申請がありました以下の方々につきまして、入退会が承認されました（申請順・敬称略）。

### <入会>

#### \*一般 9 名

松村敏弘（東京大学）、北浦康嗣（岐阜大学）、狩野秀之（宮崎大学）、川地啓介（三重大学）、山田育穂（東京大学）、中川雅之（日本大学）、野呂純一（学習院大学）、池田清宏（東北大学）、梶谷義雄（京都大学）

#### \*学生 10 名

Tithpongtrakul, Nontachai（南山大学）、焼田 紗（名古屋大学）、小林広和（東京大学）、汪 健（立命館大学）、Komlosi, Eva（鳥取大学）、譚 立力（東北大学）、森本 裕（京都大学）、萩行さとみ（早稲田大学）、近藤恵介（神戸大学）、後藤 啓（神戸大学）

#### \*海外 1 名

Kang, Misuk（韓国 産業研究院）

### <退会>

#### \*一般 6 名

吉村英俊（北九州市立大学）、橋本介三（大阪大学）、江崎光男（大分大学）、早川和伸（(独) アジア経済研究所）、増田 聡（東北大学）、上江洲 豪（琉球大学）

#### \*学生 1 名

堀野 功（大阪大学）

#### \*賛助会員 1 法人

(株)日本能率協会総合研究所

この結果、2011 年 12 月 4 日現在の会員数は、個人会員が、一般会員 410 名、学生会員 59

名、海外会員 9 名、賛助会員 9 法人（計 12 口）となります。

		2011年1月	入会	退会	転格	2011年12月	
個人会員	一般会員	403	9	-6	4	410	(不通2, 休会1 含)
	学生会員	54	10	-1	-4	59	(不通2 含)
	海外会員	8	1	0		9	
	合計	465	20	-7	0	478	
賛助会員		10 (14口)	0	-1	0	9 (12口)	

## 10. 2012 年度会費納入のお願い

会員データベースに基づいて発行された請求書をお送りします。請求額（2012 年度会費並びに過年度会費の未納金がある場合は、その合算）は、2012 年 4 月 30 日までに応用地域学会の郵便振替口座(00120-1-253855)にお振込み下さい。また、この請求額について疑義のある場合には、学会事務局までお問い合わせ下さい([clerk@arsc.org](mailto:clerk@arsc.org))。なお、お振込みの際には、ご面倒でも振替用紙の通信欄に振込金額の内訳（対象年度等）を必ずご記入下さい。（振込用紙は、請求書に同封して、送付いたします。）

### (1) ARSC 会費

2012 年度会費は、一般会費 10,000 円、学生会員 5,000 円、賛助会員 1 口 50,000 円です。また、海外会員（日本人の短期滞在者を除く）は、ARSC 年報(応用地域学研究)を購読される場合\$80、購読されない場合\$60 です(RURDS は、全員に配布)。なお、海外からのお支払いの場合は、日本国内の知人等を経由して日本円でお支払い頂くのが最善ですが、それが不可能であれば、国際郵便為替、または各国の銀行で振り出された US ドル建ての小切手をご利用下さるようお願いいたします。

### (2) RSAI（国際地域学会）会費（入会は任意です）

RSAI の年会費は、会員に対するサービス内容として、ジャーナル「Papers in Regional Science (PiRS)」、並びに、ニューズレターを、印刷物として受け取るか、電子アクセスのみとするかで、下記に示す、**A、B の 2 種類**あります。それ以外のサービスについては、A、B とも共通して受けられます。

RSAI 会員のサービス等は、Wiley-Blackwell 社を通じて行われています。ジャーナル“Papers in Regional Science”も、Wiley Interscience 上で閲覧できるようオンライン化されています。

#### ○ジャーナルの印刷物を郵送で受取るサービスを希望の場合 (A)

一般会費： ¥6,000円      学生会員： ¥3,000円

<サービス内容>

- ・ジャーナル (PiRS) の郵送による受け取り
- ・ニューズレターの郵送による受け取り

#### ○ジャーナルや情報への電子アクセスのみを希望の場合 (B)

一般会費： ¥1,200円      学生会員： ¥800円



<サービス内容>

- ・ PiRSの電子コピー (Eメールによる受け取り)
- ・ ニュースレターの電子コピー (Eメールによる受け取り)

<A, Bに共通したサービス内容>

- ・ Journal of Regional Science などのWiley-Blackwell社の雑誌の購読料割引と関連出版社の詳細情報の提供
- ・ RSAIホームページへのアクセス
- ・ RSAIの会議への参加費割引
- ・ メンバーリストへのアクセス

<会員の入退会・継続、サービス区分の変更の希望>

従来からのRSAI会員の方は、特に退会の申し出のないかぎり会員を継続されると判断します。また、新規に入会を希望される方は、希望するサービス区分を会費払込票の通信欄に記入してください。また、退会、サービス区分の変更等がある場合は、その旨、払込票の通信欄にご記入ください。(この通信欄の記入をもとにARSC事務局が、RSAI会員サービス提供の手続きを行います。)

<RSAIの会費納入>

希望するサービス内容の金額をARSC会費と合算してお振込みください。払込票通信欄には、送金内訳を記入してください。

## 11. 2011 年度総会報告

ARSC 事務局 宮本成雄

2011 年度の総会は、大会中の 12 月 3 日 (土)、運営幹事の安藤朝夫先生 (東北大学) の司会進行もとに行われました。概要は以下の通りです。

**議題及び要旨；**

1) 学会活動報告及び活動方針

黒田達朗会長より、2011 年度の活動・方針を中心とした学会の運営方針が示されました。

2) 会員異動報告 (前掲)

3) 2010 年度決算 (別掲)

監査委員 (平澤亨輔生(札幌学院大学)、衣笠達夫先生(追手門学院大学)) の監査を受けた 2010 年度決算書が報告され、原案どおり承認されました。

4) 2012 年度予算 (別掲)

原案どおり 2012 年度予算が承認されました。

5) 応用地域学会 2011 年度坂下賞(前掲)

2011 年度坂下賞は、前掲のとおり、大阪大学の山本和博先生が、授賞されました。

6) 2012 年度研究発表大会の開催について (前掲)

7) 第 2 回アジア地域科学セミナーの開催について (前掲)

## 8) ジャーナルの編集状況及び今後の方針について

### ①応用地域学研究

応用地域学研究の編集委員の安藤朝夫先生（東北大学）から、No16の編集状況と発刊の報告と、No.17からの編集委員長との交代が報告されました。

応用地域学研究 No.16 は、投稿数が少なかったこともあったが、東北大学が震災の被害を受けたことの影響により編集作業が遅れ、現在、2012年3月中の発刊を目指して取りまとめ中である。編集委員長は、No.17から、大澤義明先生（筑波大学）に交代する。（前掲）

### ②RURDS

RURDSの編集については、編集委員長黒田達朗先生（名古屋大学）から、2011年度のNo.1は、発刊しているが、No.2.3は、合併号として、発刊準備中であるとの報告がありました。

## 9) その他

事務局より、会員管理システムの準備状況について、一部の方にモニタリング中であり、間もなく運用できるとの報告。（運用については前掲）

## 12. 事務局だより

ARSC 事務局 宮本成雄

- **第25回 ARSC 研究発表大会**は、多くの会員の皆様のご参加をいただき、大変な活況でありました。今大会の陣頭指揮を取られた大会委員長の岩田真一郎先生並びに唐渡広志先生の大変なご尽力をはじめ、富山大学の皆様、プログラム委員長の城所幸弘先生（政策研究大学院大学）とプログラム委員の先生方のご苦勞に対し、また様々な側面でご協力いただきました皆様に、深く感謝申し上げます。
- **運営委員の選挙**です。2012年4月からの2年間、学会の運営の基本事項を議論し、運営にご尽力をいただきます。未だ、東日本大震災の傷跡の癒えぬ中、また、年度末を控え、そして新年度への準備と、何かとご多忙の折かと思いますが、お忘れなきようお願い申し上げます。
- 「**応用地域学研究**」編集委員長を務められた奥村誠先生には、編集委員長としての3年間のご尽力を感謝するとともに、先生の研究室が大震災の影響で多大な被害を受けた中でも、No.16の刊行に最後まで、携わってしていただけますこと、心より感謝申し上げます。
- **地域科学に関連する分野の研究**に興味を持たれている個人、または団体・法人が周囲に居られましたら、是非入会をお勧め頂くようお願い致します。ARSCのホームページ (<http://www.arsc.org>)より、又は、直接 (<https://service.kktcs.co.jp/smms2/entry/arsc>)を開き、必要事項を記入し、送信してください。（また、Email等によるお申し込みも受け付けておりますので、記入事項をARSCホームページにてご確認の上、必要事項を記入して [clerk@arsc.org](mailto:clerk@arsc.org)宛てに Emailでお申し込み下さい。

2010年度決算(2010年4月1日～2011年3月31日)

収入の部	2009年度決算		2010年度予算		2010年度決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	8,524,616		8,575,522	0.00	8,575,522	
2.個人会費収入	4,490,503		4,575,000	1,800.00	3,769,973	
3. RSAI会費	344,700		348,000	0.00	182,000	
4.賛助会費収入	700,000		1,100,000	0.00	650,000	
5.補助金(科学研究費補助)	0		0	0.00	0	
6.大会参加費収入	1,724,000		860,000	0.00	1,107,722	
(年次大会)	890,000		560,000	0.00	559,000	
(アジア地域科学セミナー)	834,000		300,000	0.00	548,722	
7.大会開催寄付金	154,600		0	0.00	80,000	
8.利子収入	1,690		0	0.00	786	
9.雑誌販売(Back Number)	11,550		0	0.00	11,580	
10.その他	413,595		400,000	0.00	0	
(RURDS編集補助*)	400,000		400,000		0	
(繰越金差額修正)	13,595					
収入合計	16,365,254		15,858,522	1,800.00	14,377,583	0
(繰越金を除く収入合計)	7,840,638		7,283,000	1,800.00	5,802,061	
(*(財)昭和経済研究所より)			7,454,000			

支出の部	2009年度決算		2010年度予算		2010年度決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.RURDS購読費	2,749,599		3,781,400	0.00	2,814,642	
(編集経費)	78,300		400,000	0.00	59,400	
(購読費)	2,671,299		3,381,400	0.00	2,755,242	
2.年報刊行費	729,600		1,050,000	0.00	662,940	
3.大会開催費	2,700,387		1,870,000	0.00	1,739,859	
(年次大会)	1,533,775		1,070,000	0.00	933,149	
(アジア地域科学セミナー)	1,166,612		800,000	0.00	806,710	
4. RSAIへの送金	200,220		348,000	0.00	191,215	
5.坂下賞	121,000		121,000	0.00	121,000	
6.名簿印刷費	0		0	0.00	0	
7.ニューズレター等印刷費	107,877		100,000	0.00	189,286	
8.一般事務費	581,049		270,000	0.00	259,067	
(郵送費)	160,360		150,000	0.00	115,900	
(消耗品等)	8,259		20,000	0.00	19,457	
(謝金・交通費等)	390,790		80,000	0.00	105,610	
(銀行手数料)	21,640		20,000	0.00	18,100	
9.事務局費	600,000		600,000		485,900	
10.予備費	0		50,000	0.00	0	
支出合計	7,789,732	0	8,190,400	0.00	6,463,909	0
繰越金	8,575,522	0	7,668,122	0.00	7,913,674	0
ドル貨円換算(手数料を除く)			120,000	1,800.00		
繰越金合計	8,575,522		7,788,122		7,913,674	


注:2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費は、円に換金して円口座に入金。

監査の結果、決算は適正になされていることを認めます。

監査委員

衣笠達夫 

監査委員

平澤亨輔 

2012年度予算書

応用地域学会2012年度予算書						
収入の部	2010年度決算		2011年度予算		2012年度予算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	8,575,522	0.00	7,913,674		7,441,774	
2.個人会費収入	3,769,973	0.00	4,575,000	1,500.00	4,625,000	1,100.00
3.RSAI会費	182,000	0.00	271,000	0.00	271,000	0.00
4.賛助会費収入	650,000	0.00	1,000,000	0.00	900,000	0.00
5.補助金(科学研究費補助)	0	0.00	0	0.00		0.00
6.大会参加費収入	1,107,722	0.00	860,000	0.00	860,000	0.00
(年次大会)	559,000	0.00	560,000	0.00	560,000	0.00
(地域科学セミナー)	548,722	0.00	300,000	0.00	300,000	0.00
7.大会開催寄付金	80,000	0.00	0	0.00	0	0.00
8.利子収入	786	0.00	0	0.00	0	0.00
9.雑誌販売(Back Number)	11,580	0.00	0	0.00	0	0.00
10.その他	0	0.00	400,000	0.00	400,000	0.00
(RURDS編集補助*)	0		400,000	0.00	400,000	0.00
<b>収入合計</b>	<b>14,377,583</b>	<b>0.00</b>	<b>15,019,674</b>	<b>1,500.00</b>	<b>14,497,774</b>	<b>1,100.00</b>
(繰越金を除く収入合計)	5,802,061	0.00	7,106,000	1,500.00	7,056,000	1,100.00
(ドル貨を含む)	5,802,061		7,171,500		7,097,500	
支出の部	2010年度決算		2011年度予算		2012年度予算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.RURDS購読費	2,814,642	0.00	3,601,400	0.00	3,549,500	0.00
(編集発行費)	59,400	0.00	400,000	0.00	400,000	0.00
(会員購読費)	2,755,242	0.00	3,201,400	0.00	3,149,500	0.00
2.年報刊行費	662,940	0.00	1,050,000	0.00	950,000	0.00
3.大会開催費	1,739,859	0.00	1,670,000	0.00	1,870,000	0.00
(年次大会)	933,149	0.00	1,070,000	0.00	1,070,000	0.00
(地域科学セミナー)	806,710	0.00	600,000	0.00	800,000	0.00
4.RSAIへの送金	191,215	0.00	271,000	0.00	271,000	0.00
5.坂下賞	121,000	0.00	121,000	0.00	121,000	0.00
6.名簿印刷費	0	0.00	0	0.00	0	0.00
7.ニューズレター等印刷費	189,286	0.00	20,000	0.00	20,000	0.00
8.一般事務費	259,067	0.00	360,000	0.00	360,000	0.00
(郵送費)	115,900	0.00	50,000	0.00	50,000	0.00
(消耗品等)	19,457	0.00	20,000	0.00	20,000	0.00
(交通費・謝金等)	105,610	0.00	100,000	0.00	100,000	0.00
(銀行手数料)	18,100	0.00	20,000	0.00	20,000	0.00
(システム管理費)			170,000	0.00	170,000	0.00
9.事務局費	485,900	0.00	500,000	0.00	400,000	0.00
10.予備費	0	0.00	50,000	0.00	50,000	0.00
<b>支出合計</b>	<b>6,463,909</b>	<b>0.00</b>	<b>7,643,400</b>	<b>0.00</b>	<b>7,591,500</b>	<b>0.00</b>
繰越金	7,913,674	0.00	7,376,274	1,500.00	6,906,274	1,100.00
ドル貨円換算(手数料を除く)			65,500		41,500	
繰越金合計	7,913,674		7,441,774	1,500.00	6,947,774	
注1: 2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費納入は、すべて円に換金して円口座に入金。						